

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 26 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：</p> <p>長野市内における障害者福祉施設での口腔ケアの取り組み</p>
<p>2. 申請者名：</p> <p>公益社団法人 長野市歯科医師会 会長 大久保覚</p>
<p>3. 実施組織：</p> <p>公益社団法人 長野市歯科医師会 地域保健部（在宅・障害者担当）</p> <p>社会福祉法人 長野市社会事業協会 栗田園</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>長野市内開設の障害者福祉施設・栗田園において、施設を利用する知的障害者に対し歯科検診及び歯科衛生士による口腔ケアを行った。お口の健康を維持するために自身の口腔内の現状を知ってもらい、口腔内診査と口腔衛生指導の他にリーフレット配布を行い、口腔ケアの重要性を啓発した。今年度は日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長の菊谷武教授をお招きし、講演会を開催した。さらに「歯を守る市民の会」を開催し、長野市歯科医師会会員による講演と歯科衛生士による口腔ケアの実習を行った。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>障害者福祉施設・栗田園を利用している知的障害者 13 名に対し、平成 26 年 10 月 7 日に口腔内診査と口腔ケアを行った。そして、同年 10 月から平成 27 年 3 月まで、毎月一回歯科衛生士が口腔ケアを行い、平成 27 年 3 月 10 日、再度口腔内診査を行った。月一回の口腔ケアでは、一人一人の受診者に適した口腔衛生指導と、必要に応じて「パタカラ」や肩上げ体操などを指導し口腔機能の向上も図った。そこで、1 回目と 2 回目の両方の口腔内診査を受けた受診者の結果のうち、歯垢・歯石の付着状態、歯肉の状態について比較検討した。最後に受診者とその家族、施設スタッフにアンケートを行った。11 月には、RD テストによるカリエスリスクの評価と「噛むカムチェックガム®」を用いた咀嚼能力判定試験を行った。また歯科衛生士が、受診者が昼食を摂る様子を見せていただき、食事姿勢やどのように食べているのかを観察した。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>長野栗田園の今年度の施設利用者は 30 余名で、そのうち 13 名が口腔ケアを受けた。このような障害者施設で全員が参加するというのはなかなか困難であるが、施設にも働きかけて受診率をさらに上げられるように努力していきたい。今回の口腔ケアでは、歯科衛生士がブラッシングの「テクニック」よりも「回数」に重点を置き指導し、食後には「ブクブクうがい」も行ってもらった。そのため、2 回目の口腔内診査では歯垢・歯石の付着は完全には無くならなかったが、ほとんどの受診者で口臭が無くなり、歯肉の炎症も改善傾向を認めた。月 1 回のケアであったが成果があったと思われる。今回は咀嚼能力判定試験を行い、食事の様子を歯科衛生士が観察した。障害者の人たちが、自分で口から食べられるということが大切であるため、今後は摂食指導を行うことも検討したい。障害のある人たちが豊かな生活をおくり健康度を向上させるためにも、継続的な歯科健診、口腔衛生指導の充実が不可欠であると考える。このような健診事業を他の同様な施設でも行い、最終的には長野市の健診事業として実施されることを期待する。</p>